

9月27日、ソクサ色の空が広がる午前8時頃、片浦小学校に到着すると、先生たちがグラウンドの真ん中に集まって、運動会のすずわりのくす玉の位置を調整していた。

片浦小学校へは、根府川駅から山側の坂道を8分ほど登って行く。高台のグラウンドに着くと、山の緑と海の青に囲まれた、すばらしい景色が一望できる。来年で開校100周年を迎える片浦小学校は、平成24年度から小規模特認校となり、小田原市全域から児童を受け入れている。今では、全校児童80人のうち半分以上が片浦地区以外から通う児童となった。

8時30分、片浦小学校の運動会がスタート。児童の帽子は、赤青白黄に分かれていて、赤青チームと白黄チームに分かれての対戦になる。まずは、片浦体操で準備運動。そして、先生方が準備していた2種目めのすずわりは、なんと、両チーム同時にばかっと割れ、引き分けに。その後も、リレー、綱引き、応援合戦、組み体操、さらには実況放送まで。全校児童80人は最後まで大忙し。少ない児童数だからこそ、全員が運動会の主役。今年の運動会は、512対490で白黄チームの勝利。11時20分、わずか3時間弱でその幕を閉じた。

※1 片浦小学校のオリジナル体操。『世界でひとつだけの花』にのせて。



綱引きでは、みんなで声を掛け合う。

午前、うんどう会 午後、けんみん祭

前半は、片浦小学校の運動会。間に金管ドリル演奏をはさんで、後半は片浦地区の健民祭。晴天のもと、子どもも大人も、本気で走り抜ける。優勝常連のあの地区は、今年も連勝となりますでしょうか。



校舎の窓には今回の運動会のテーマである『この広いグラウンドに4色の光を輝かそう』のことば。



組体操のクライマックスで、広い青空を見上げる。



一生懸命な姿に、観客一同感動。



さっきまで運動会をしていたとは思えない、華麗な演奏。



グラウンドのすみからすみまで、ファンサービス。



入場門の裏側には、各チームのスローガンが貼られていた。

昼食の休憩が終わると、今度は子どもたちによる金管ドリル演奏が始まった。午後1時からの健民祭までの25分間、体操着からユニフォームに着替えた4、5、6年生がグラウンドを彩る。

片浦小学校では小田原市内で唯一、児童たちによる吹奏楽の『金管バンド』活動をしていて、北条五代祭りなどにも毎年参加している。健民祭での演奏を最後に6年生は引退し、バンドは3、4、5年生に引き継がれる。

トラックをぐるりと一周し、グラウンド中央でさまざまな隊形が変化していく。大きくて重たい楽器を、小さな体で、姿勢よくささえながら、一生懸命マーチングをする子どもたちの姿をみんなで見守った。

片浦小学校運動会と
片浦地区健民祭の風景

